

第二学年 国語科学習指導案

日時 平成三十年十月二十二日
場所 関市立桜ヶ丘中学校（二年四組教室）
学級 二年四組（男子十六名・女子十九名） 計三十五名
授業者 加藤 尚子

一 単元名「桜ヶ丘地域の一体感を高めるために」 題材名「根拠を明確にして意見を書こう」

二 単元及び題材について

学習指導要領（平成二十九年告示）に示された本題材における重点的な指導事項は、次のとおりである。

思考力、判断力、表現力等 B書くこと

○イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。

【構成の検討】

◎ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考え

が伝わる文章になるように工夫すること。

【考えの形成、記述】

本題材は、社会的な課題を取り上げ、自分の立場を明らかにして意見を書くものである。伝えたい事実や事柄が明確になるように構成を工夫し、読み手に効果的に伝わることを意図して書くことができるようにする。

読み手に自分の意見を納得してもらうためには、意見を支える根拠やその根拠に基づいた解釈を述べ、意見と根拠との関係性に整合性をもたせることが大切である。「根拠」については、自分の考えを支えるものか、それは確かな事実に基づいているか、自分の考えはそれらに対する妥当な解釈から導き出されているかなど、その適切さを考えさせることが必要である。意見を支える強い根拠となるよう、意見との関係性について吟味して書くことができるようにしたい。そのために、それらを、説明や具体例としてどのように記述するかが、文章の説得力にかかわって重要であることを捉えさせたい。さらに、自分の意見に対する反論を想定し、それに対する意見を述べることで説得力が増し、意見の正当性が強調されることを理解させたい。

三 生徒の実態

生徒は第一学年「根拠を明確にして魅力を伝えよう―鑑賞文を書く―」において、作品の魅力を伝えるために、段落の役割を考えて文章を構成することや、具体的な事実を取り上げて、自分の感じたことの根拠を明確にして記述することを学習している。この単元で、作品の魅力と感ずる「具体的な特徴」を挙げ、そこからどのような魅力があると感じたかという「自分の感じたこと・想像したこと」を書くことができるようになってきた。

しかし、レイネステストで「森林破壊」に対する自分の意見を、具体的な根拠を挙げて書く」という問題に取り組んだ時、自分の意見との整合性がない根拠を取り上げたり、「根拠」が情報の取り出しのみになって、根拠に対する自分の解釈（考え）が書いていなかったりしている生徒が多くみられた。これは、「根拠」として、どんな事例をどのように取り上げて書くかと説得力が増すかという理解に弱さがあるからだと考える。自分の意見に合わせた事例を取り上げ、それに対する解釈を加えたり、反論を予想してその対応を考えて示したりすることで、自分の意見により説得力をもたせられることを理解して記述できるようにしたい。

本時においては、生徒が主体的・能動的に学習に取り組み、事例の取り上げ方を発見して自分の意見文に生かした喜びを味わえるように、生徒と同じ困り感を抱いている例を提示する。そして、全体で事例の取り上げ方を確認して自分の意見の根拠を考えられるようにする。生徒自身が自分の意見に合わせた事例を検討し、それらを選択した理由まで話すことができるようにしていきたい。

四 言語活動とその特徴

学習指導要領の第二学年【B書くこと】の言語活動例「イ多様な考えができる事柄について、意見を述べるなど、自分の考えを書く活動」を具体化して「桜ヶ丘ふれあいまちづくり委員会の方に、意見文を書く」という言語活動を位置付ける。桜ヶ丘ふれあいまちづくり委員会では、桜ヶ丘で暮らす人々の生活を潤すとともに地域の一体感や活力をさらに高めるために住民同士の交流、地域の賑わいや楽しみが生まれるイベントや行事の開催を方針の一つとして挙げている。委員長の八木さんの、「中学生の意見をぜひ伺いたい」という依頼を受け、ふれあいまちづくり委員会の活動や方針、委員の方の思いを十分に理解した上で、学習を進める。「自分の意見とその根拠を明確にすること」、「自分と異なる意見を踏まえること」、「六百字程度の文章にすること」という条件の基、意見文を書く学習を展開することにより、指導事項イ【構成の検討】、ウ【考えの形成、記述】を重点的に指導する。

文章構成では、三種類（頭括型・尾括型・双括型）の例文を提示し、それぞれの構成法のおよそを理解させた上で、自分の目的や意図に適した構成法を各自が選択することで、構成を工夫できるようにしていく。また、自分の意見を支える根拠として、自分の意見に合った事例を取り上げたり、それに対する自分の見方や考え方を示したりすることで説得力が増すことを理解させる。同じ視点の事例を並列で並べる、別の視点からの事例を並べるなど、様々な事例の取り上げ方があり、それらが自分の意見に合っているかどうかを吟味できるようにしていく。

五 単元指導計画（全八時間）

【単元のねらい】

- ・伝えたい事実や事柄を明確にし、文章の構成を工夫することができる。
- ・自分の意見について、根拠を具体的に示したり、反論を想定しそれに対する考えを示したりして、意見と根拠を明確にして意見文を書くことができる。

【単元の評価規準】

- ・「自分の意見」「根拠」「反論を想定した意見」を、自分の目的や意図に合った構成法（頭括型・尾括型・双括型）を選択し、意見文を構成している。
- ・自分の意見に対して、目的や意図に適した根拠を選択し、事実の示し方や結論とのつなげ方、文末表現などを工夫したり、自分と異なる立場の意見を想定した意見を述べたりして、六百字程度の意見文を書いている。

時	ねらい（○課題）	評価規準・評価方法
1	<p>「中学生の意見をぜひ伺いたい」という桜ヶ丘まちづくり委員会の方の要望を受け、意見文を書く目的や意図を理解して学習に見通しをもち、提案する意見を考えることができる。</p> <p>○八木さんの依頼に対する自分の意見を書こう。</p>	<p>桜ヶ丘まちづくり委員会委員会の方の要望に対する自分の意見を考えている。</p> <p>【題材の設定、情報の収集、内容の検討】 （下書きメモの「意見」と「理由」）</p>
2	<p>意見文を書く際には、自分の意見を支える「根拠」が必要であることに気付き、根拠として取り上げる情報を、提示資料やインターネット等を活用して、情報メモにまとめることができる。</p> <p>○自分の意見を支える根拠としての情報を集めよう。</p>	<p>提示資料やインターネット等を活用し、自分の意見を支える情報を、情報メモに書いている。</p> <p>【題材の設定、情報の収集、内容の検討】 （情報メモ）</p>
3	<p>三種類の構成法（頭括型・尾括型・双括型）で書かれた例文を比較することで、それぞれのよさを理解し、自分の目的や意図に合った構成法を選ぶことができる。</p> <p>○自分の意見を分かりやすく伝えるためには、どのように構成するよいのだろう。</p>	<p>三種類の構成法のよさを理解し、自分の意図や目的に合った構成法を選んで下書きメモに書いている。</p> <p>【構成の検討】 （下書きメモ）</p>
4（本時）	<p>Aさんの意見支える根拠をどのように選択するとよいかを考えることを通して、「根拠」の段落に取り上げる事例には、「同じ視点の二つの事例を並列で並べる」・「一つの事例と別の視点からの事例を挙げる」など、意見に合わせた事例を取り上げるとよいことに気付き、根拠として取り上げる事例が、自分の意見を支えるものであるかを検討して、情報メモから事例を選択することができる。</p> <p>○「根拠」に、どのような事例を選択すると説得力が増すのだろうか。</p>	<p>自分の意見に合わせて、事例が意見を支えるものであるかを検討して、選択している。</p> <p>【考えの形成、記述】 （下書きメモ）</p>
5	<p>Aさんの選択した事例をどのように書くかよいかを考えることを通して、意見に合わせた事例について、その解釈を書くことよいに気付き、事例を吟味し、それについての解釈を書くことができる。</p> <p>○「根拠」に、どのように事例を書くか説得力が増すのだろうか。</p>	<p>自分の意見に合わせた事例を吟味し、事例についての解釈を書いている。</p> <p>【考えの形成、記述】 （下書きメモ）</p>
6	<p>二つの意見文を比較することを通して、「反論を想定した意見」を書く時は、「自分の意見」の「問題点」とその「解決策」を書けばよいということに気付き、「反論」を想定し、「それに対する意見」を考えることができる。</p> <p>○「反論を想定した意見」は、どのように書くか説得力が増すのだろうか。</p>	<p>「反論を想定した意見」として、「自分の意見」の「問題点」と、その「解決策」を書いている。</p> <p>【考えの形成、記述】 （下書きメモ）</p>
7	<p>教師の提示した例文を、どう直すかより説得力が増すかを考えることを通して、「根拠が自分の意見を支えるものとして適切か」「想定した反論が、自分の意見の問題点として適切か」の観点で推敲するとよいことに気付き、二つの視点で、推敲して清書することができる。</p> <p>○下書きを基に、意見文を完成させよう。</p>	<p>「根拠が自分の意見を支えるものとして適切か」「想定した反論が、自分の意見の問題点として適切か」の観点から、より説得力のある文章になるよう推敲して清書している。</p> <p>【推敲】 （清書）</p>
8	<p>意見文を互いに読み合うことを通して、意見の明確さ、根拠の適切さなどについて相互評価・自己評価をし、これまでの学びについて自分の考えをまとめることができる。</p> <p>○仲間の意見文を読み、表現の工夫やその効果を見付けて助言し合おう。</p>	<p>説得力のある文章にするための工夫について交流したり助言し合ったりし、これまでの学習を振り返って、自分の表現に役立てようとしている。</p> <p>【共有】 （自己評価シート・学習の振り返り）</p>

六 本時のねらい
 Aさんの意見支える根拠をどのように選択するとよいかを考えることを通して、「根拠」の段落に取り上げる事例には、「同じ視点の二つの事例を並列で並べる」「一つ目の事例と別の視点からの事例を挙げる」など、意見に合わせた事例を取り上げるとよいことに気付く。根拠として取り上げる事例が、自分の意見を支えるものであるかを検討して、情報メモから事例を選択することができる。【思考力・表現力・判断力 B書くことウ】

七 本時の展開（四／八時間）

学習活動

指導・援助

導入 ◇前時までの進捗状況を確認し、本時の活動に見通しをもつ。

・意見を支える「根拠」として情報をいくつか集めたけど、どんな事例を取り上げるとよいか考えたい。

◇本時の課題を確認する。

「根拠」に、どのような事例を取り上げると説得力が増すのだろうか。

展開

◇Aさんの意見の根拠として、五つの事例を比較して、どの事例を取り上げると説得力を増すのかを考える。

Aさんの意見

地域の一体感を高めるために、中学校に地域の方を招待して給食会を開きたいと考える。なぜなら、給食招待は、お互いを知ることができるし、その後に出たときに挨拶をすることもできて、つながりが増え、一体感を高められるからだ。

①地域の高齢者の方を学校に招待して、一緒に給食を食べる活動を行った。会話をしながら挨拶をすることもでき、つながりが増え、一体感を高められるからだ。
 (給食招待)

②中学校で、地域の方を学校に招待し、学校の様子を参観してもらった。学校のことや、自分たちの頑張りを知ってもらうことで、地域の方々が学校行事などに協力的になった。
 (学校参観)

③小学校で、地域サポーター隊の方々に招待して給食会を開いた。学校給食のよさや残さず食べることの大切さを、共に考えることができた。
 (給食招待)

④地域の祭りで学校紹介のプレゼンテーションを行った。自然と挨拶が増え、その後も一緒に花植えをするなど、交流が続いている。
 (学校紹介)

⑤地域で登下校の見守り活動をしている方々を給食に招待し、交流を深める場をつくった。お互いを知ることがよくなり、登下校中の挨拶も増えた。
 (給食招待)

◇全体で交流し、説得力を増す「根拠」の取り上げ方を一般化する。

・共通点は、①・③・⑤の事例は、「給食招待」について書かれていること、①・④・⑤の事例が、成果として「互いをよく知る」ことを挙げていること、⑤の事例が、成果として「互いをよく知る」ことを挙げていることである。
 ・Aさんの意見は、「給食に招待して給食会を開く」だから、「給食招待」に絞った①・③・⑤の事例が適切だ。しかし、③は、活動の成果が、Aさんの意見と異なる。だから、①・⑤がよいのではないか。
 ・もし意見が、「給食に招待する」とことと「学校のことを知ってもらう」というものなら、①・③でよい。つまり、意見にあった事例を取り上げることと、説得力の増す効果的な書き方ができる。

「根拠」は、「自分の意見」を支えるものであるから、「意見」に合った事例を取り上げることで、説得力が増す。

A：同じ視点の二つの事例を並列で並べる。
 B：一つ目の事例と別の視点からの事例を挙げる。

◇自分の根拠に取り上げる事例を選択し、下書きメモに付箋を貼り付ける。

・私は、「意見」に「花の種まきを一緒にする」と「一緒に水やりなどをして定期的に活動する」の二つの視点を書いている。だから、一つ目の事例と別の視点の事例を挙げる方法で、○○と、○○の事例を選択しよう。

◇本時の振り返りをする。

終末

「根拠」を書くときには、自分がどんな意見を述べているか、伝えたいことは何かを考え、その意見に合った事例を取り上げることと説得力が増すのだと分かった。

私の意見は、意見の中に二つの内容が入っているから、一つ目の事例と別の視点でもう一つの事例を選択した。伝えたいことと合っているかをグループで確認したら、意見を支えるものになっていることを実感できた。

下書きメモの「意見」に合わせて、どんな事例を取り上げるとよいか考えることが難しい生徒がいると予想する。そのため、どのような「意見」を書いているかを把握しておくこと、集めた情報の付箋に「種まき」等、小見出しを書くように指示しておくこと、下書きメモの意見の部分に蛍光ペンで印を付けておくことの3点を事前に行っておく。
 ・Aさんは、五つの事例の中から、④・⑤の二つを選択しているが、「どう思うか」と問いかけ、④・⑤が適切かどうかを、他の事例と比較しながら考えているようにする。

【苦手を克服する手立て】

個人で事例を選択する場で、どの生徒もA・Bのどちらかの事例の取り上げ方ができるようにしておく。その上で、本時は、下書きメモの「意見」を視点ごとに囲み、選択した事例と照らし合わせながらどのような事例の取り上げ方がよいかに分かるようにする。そういった手順をまとめたスキルアッププリント①を作成し、複数該当する生徒がいても支援できるようにする。

【得意を伸ばす手立て】

評価規準を満たし、より効果的な書き方につなげようとする生徒もいると予想する。その生徒には、全く別の視点からの事例を取り込んで、自分の意見の正当性を伝えられないかと考えさせるためのスキルアッププリント②を準備する。また、必要に応じて、再調査のためにパソコンを使用して、新たな情報を探ることができるようにする。

【評価規準】B書くことウ

自分の意見に合わせて、事例が意見を支えるものであるかを検討して、選択している。(下書きメモ)